



パイル織物のまち 高野口

パイル織物 DAYORI

令和4年1月吉日
第 36 号
発行者
紀州繊維工業協同組合
広報委員会
和歌山県橋本市高野口町名倉1067
TEL 0736-42-3113(代) FAX 0736-42-2054
E-mail: kisyuori@zeus.onet.ne.jp
http://www.koyaguchi.com

新年のご挨拶

紀州繊維工業協同組合
理事長 妙中 清剛



新年あけましておめでとう
ございます。組合員各位には
益々ご盛栄のこととお慶び申
し上げます。

昨年は一昨年に引き続き、コ
ロナ禍により、社会全体にわ
たつて惨憺たる状態でした。営
業に行くのは控えなくてはな
らず、顧客も会社の方針で出張
できず、ストレスが募るばかり
の一年でした。恒例のぶわぶ
わ展も、開催を諦める事
態となり、辛うじて東京国際
フォーラムでの「プレミアム・
テキスタイル・ジャパン展」が
開催していただけたとの事
です。当然ながらアパレル用途
のみならず、インテリア用、資材
用、その他の用途の需要も冷え
込んで、本当に逼迫感に包まれ
た年になってしまいました。

紀州繊維工業協同組合は、
一九五〇年(昭和二十五年)に
設立されました。以来七十二
年経ちますが、今ほど落ち込んだ
ことは、過去には無かったと思
います。手元に平成十一年(西
暦二〇〇〇年)に作成された
「紀州繊維工業協同組合 創
立五十周年記念誌」がございます
。それによりますと当時の組
合員数は、法人・個人合わせて
百二十四社、賛助会員(下請工
場)は百十八人でした。現在の
組合員数は四十六社、賛助会員



モードではない、 地殻変動である再生可能社会に適合した 生産と商品が時代を、動かす。

は二十人です。二十一年間で組合
員数が三十七%、賛助会員が十
七%になってしまいました。

大変大きな減少ですが、国内
の繊維産地では何処の産地でも、
同じ様な状況が生じている
と推測しています。発展途上国
では、生活必需品である繊維製
品は、あまり大きな資本が無く
ても出来ますので当然だと思
います。しかしながら高野口産
地のパイルファブリックは、他
の産地の生地と違って、まだま
だ用途開発の可能性があり、将
来性があると私は信じていま
す。発展途上国でもパイルファ
ブリックの生産を手がけてい
ますが、一朝一夕に未知の用途
の開発は決して出来ないと思
います。

経験の豊富な高野口産地
です。産地として今迄のアパ
レル・インテリア・寝装の三大
用途の改善、改良はもとより
全く手掛けていなかった未知
の用途の開発を目指して、我々
の可能性の幅広さをアピール
し、困難な事でも挑戦してゆく
姿勢を見せることで、色々な
ニーズを認識することが大切
だと思えます。組合員各位には
様々なニーズを収集し、自社で
出来るものは自社でトライし、
困難な物は他社に呼びかけ協
同してトライするなりして当
産地で出来る案件は、逃さない
ようにすることが大切です。

そのために組合を中心に
して、新規用途開発情報交換会
的な集まりが出来ないかな？
と思っています。私自身も考
えてみますので、組合員各位も良
いアイデアがございましたら、
是非ともご提案下さいませよ
うお願いします。それと共に
高野口産地の規模が小さくな
るに従い、産地を支えて頂いて

いました染色工場、加工場、機
料品屋、箆屋、経入れ屋、紋紙屋
ジャガード吊り込み屋、カセ操
屋、鍛冶屋、電機工事屋、等々の
我々の周辺で、長年にわたって
当たり前の様に産地を支えて
頂いていました業種の人々
も次々と廃業されています。今
までは持ち込んだり、来て頂い
てスムーズに解決できていた
事柄が、スムーズに進まない事
態が生じており、弊社でも色々
と困った事に直面しています
その都度産地内の他社さんか
ら紹介して頂いたり、お付き合
いのある北陸産地の人々のお
世話で、解決できた事柄もあり
ました。このような事柄も、産
地内のコミュニケーションを
スムーズに出来る様に各社間
で情報交換し、組合事務局を介
して他産地との交流を盛んに
する事でお互いに助け合える
可能性は大いだと思います。

終わりになりましたが、私は
昨年の秋の褒賞で有難くも「黄
綬褒章」を頂戴致しました。黄
綬褒章は自分の職務に精励し
たことを褒めたいと授けら
れたことと承知して頂いて
して頂いたとの事だそう
です。昨年は一昨年に引き続き宮中
でなく和歌山県庁にて、昨年の
十一月二十二日に仁坂知事様
より、家内と二人で有り難く拝
受いたしました。この受章を組
合員の皆様はじめ大勢の方々
から、物心両面にわたる盛大な
お祝いを頂戴しました。

この事は私が大学卒業後、両
親が必死に生み育ててくれた
妙中パイル織物に、すぐ入社し
厳しく指導していただいたお
蔭です。弊社は父親のポリシ
ーで製織のみならず、染色、整理
加工、検反、梱包まで一貫して
生産していました。私ほどの工
程も業者としては一人前
はありませんが、商品開発をす

プレミアム・テキスタイル・
ジャパン出展
実行委員長
青野 三喜雄

「JFW JAPAN CREATION (JFW-JC) 2022」 「Premium Textile Japan (PTJ) 2022 Autumn/Winter」が東京国際フォーラム・ホールEにおいて12月7・8日の2日間開催されました。今回の出展は、JFW-JCが52件・298社/187.9小間(昨年実績47件・242社/168.9小間)、PTJが66件/98.5小間(昨年実績66件/92.75小間)の出展で新型コロナウイルスの新変異株オミクロン株の世界的な広がりの中、出展者、また来場者に対し万全を期した展示会となりました。

当組合からは、青野パイル(株)、(株)岡田織物、妙中パイル織物(株)、中野メリヤス工業(株)、(株)日本ハイパイル、野上織物(株)、ヤマシタパイル(有)の計7社が「高野口パイルファブリック」としてPTJに出展しました。

今展示会では高野口パイルファブリック7社それぞれの独自色が出ており、来場者に対し、ニーズにあったパイル素材を出展者間で紹介しあったり、各ブース不在時も互いに補完しあえる状況で、新型コロナの密は避け、各社互いに協力し合い、いい意味での密状態で来場者にパイル産地の高野口をアピールできたと思います。

会期の2日間、あいにくの天候不良と2日目午後密を避けるため3回の入場制限があったにも関わらず、PTJの来場者数が11,387人(前年12,626人)スワッチ等依頼件数233件/987点(前年285件/1,388点)と悪条件の中、満足いく数字となりました。

展示会内容も一昨年は来場者の要望がつかみづらい感じでしたが、今回は明確に素材を探されていたり、具体的な要求も多かった商談となりました。出展社側もSDGs・サステナブル素材等の出展も見受けられ、出展者・来場者の訴求ポイントも両者合致していたと思います。

一昨年の展示会は、どこか閉塞感を感じながらの出展でしたが、東京の人流や商談内容も含め、人々のマインドも少しずつ平常に戻っているように感じました。今回何よりも良かったと思えたのが、パイル素材を直接見て触るといふ対面形式のリアル展の重要性を改めて感じられたことです。

これからも少しずつパイル素材を見て、触っての打ち合わせが増え、コロナ前同様の商談会に早く戻れることを切に願うばかりです。

最後になりましたが、本展示会出展にご尽力、またご協力いただきました関係機関の皆様、そして高野口パイルファブリックの同志の皆様に感謝申し上げます。

る時には、其々の工程の社員が
高い技術力を持っていてくれ
ましたし、身内で製織部門と染
色整理加工部門それぞれで、素
晴らしい技術を持った職長が
いてくれましたので、具体的な
手法や処理について話し合い、指
図する事ができました。

それと共に組合活動をさせ
て頂いて、色々他社様の手法
や考え方など勉強出来た事も
私の人生で大きな支えとなり
ました。また長年にわたって組
合の理事長を務めさせて頂き
組合内は当然の事ですが、多く
の色々なお立場の方々や、県の中
小企業団体中央会の会長、県の
繊維協会会長を務めさせて頂
いたことで、大きな視野で物事
を見る事が出来るようにな
りました。組合員各位の温かい
ご支援により、この様な機会を
あたえていただき、私の人生の
フィナーレを飾って頂いたと
の感謝の気持ちでいっぱい
です。私は昨年に喜寿を迎え、心
身共に衰えを感じるようにな
って参りました。今回の受章
は、「もうそろそろ後進に譲つ
てゆけよ」とのお告げを頂いた
ことと理解しています。自社の
社長は新年早々に、組合理事長
は次の組合総会時に退任させ
て頂き、次の世代に頑張ってい
ただこうと思っています。

但し、出しゃばりな私ですの
で、リクエストがございましたら、
いくらでも参加させて頂きま
すので、間に合いそうな事が



ございましたら、お声がけくだ
さい。世界で唯一のパイルファ
ブリックの産地・高野口を元氣
にする様な企画には、老骨に鞭
打ってでも参加させて頂きま
すので、よろしくお願ひします。
このご挨拶の原稿をアイ
パッドに打っている最中に、東
京国際フォーラムから電話が
入って、プレミアム・テキスタ
イル・ジャパン展が大賑わい
で活気溢れているとの報告が
ありました。コロナ禍はすぐに
終息とはならないとは思いま
すが、我々の意気込みで吹き飛
ばしてしまいたい気持ちです。
組合員各位のご健勝、当産地
をお支え頂いています事全ての
皆様のご健勝を心よりお祈り
いたしますと共に、今年も紀州
繊維工業協同組合にご尽力、ご
協力頂きますよう心よりお願
い致します。

妙中清剛理事長 黄綬褒章受章

永年繊維産業に携わ
り、社業、組合、産地、
ひいては和歌山県繊維
業界に多大な貢献をさ
れたことにより、十一
月三日に黄綬褒章を受
章されました。当組合
にとつても大変栄誉であ
り喜ばしい限りです。



繊維産業の今後の「ジレンム」

衆議院議員

石田 真敏



新年あけましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話になりました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

この二年間、新型コロナウイルス感染症の対策に忙殺されている感じがします。巨額の財源を投じ政府・与党をあげて対策を講じた結果、一定の落ち着きを取り戻しましたが、ヒト・モノ・カネの流れが大きく損なわれま

今後は、感染の再拡大防止策を講じるとともに、一日も早く通常の生活・経済活動を取り戻せるよう、しっかりと取り組んでまいります。また、昨夏の骨太方針には今日までの反省を踏まえた対策が明記されました。司令塔機能の強化、国と地方自治体の役割の明確化、医療機関への要請のあり方など、法律と予算の両面ですっきり対策を講じてまいります。

さて、まずとくに地方の地域にとつて重要なことは、地域経済への波及効果の大きい基幹産業を振興することです。従業者の雇用確保はもちろん、関連業種の振興にもつながり、さらにこれらの人々を支えるさまざまなサービス業などが成立し、地域経済を形づくるだけに、地域の基幹産業たる高野口パイルの振興は和歌山にとつて極めて重要な問題です。関係者が一丸と

なつて、最大限の取り組みをしていかなければなりません。次に繊維産業の今後について社会の変化を見ることが考えてみたいと思います。

(1)現在ではSociety 5.0(「現在はSociety 5.0」という概念に象徴されるように、社会も産業も生活もあらゆる分野で大変革期を迎えています。Society 5.0では、AI・IoT・ロボティクス・ビッグデータ・3Dプリンターなどだけでなく、バイオテクノロジーやヘルスケア、さらに新素材などの開発も盛んで、これらの技術の進展にアンテナを高く反応して、生産性の向上を図るとともに、時代の要請や消費者の志向に対応していくことが重要です。

時代の潮流に乗った発展へ

参議院議員

鶴保 庸介



新年、あけましておめでとうございます。紀州繊維工業協同組合の皆様におかれましては、常日頃より格別のご指導・ご鞭撻を賜りまして、心より御礼申し上げます。

この新型コロナウイルスという荒波は繊維工業においても決して小さなものではなく、貴組合の活動におかれましては、昨年の「高野口パイルパブリック展」が「わがわが17th」は中止となり、対面での開催はかないませんでした。代替として、オンライン展示会の開催となりましたが、やはりパイル織物の魅力を感じてもらったためには、目で見て、手で触れてみたいと伝わり、再び展示会が開催される日を心待ちにしております。

とはいえ、繊維業界のみならず、この先、変わりゆく時代の潮流に合わせた発展を続けていくことは必至で、その中で、古来より脈々と受け継がれてきた業界としての魅力を伝えていくためにも、今回のようなオンライン媒体の活用をはじめとした創意工夫は欠かせ

のブランド力を高め、地域経済の発展に大いに頑張っていたきたいと期待しております。

(2)デジタル化は、政府をあげて取り組んでいる課題です。デジタル庁が発足し行政として取り組みに注目が集まっています。社会全体のデジタル化を速やかに実現することが重要です。

たとえば高速道路のETCです。かつて高速から降りるとき停車、入場券と料金の手渡し、釣り銭と領収書の受け取り、さらに会社などの精算も必要で時間と人手、手間がかかる仕組みでした。それが料金所を通るだけで手続きが終わるETCのスピード・効率性・利便性は和歌山でも多くの皆さんが実感していると思います。

このようなデジタル化は、店舗のキャッシュレス化だけでなく、オフィスでの事務処理、データ処理による企画力アップなどさまざまな分野で活用され、生産性向上につながることが期待されています。ただ、デジタル化は、店

行つための知恵であります。産業界がここまで積み上げてきた誇れるノウハウや技術、我が国が堅持する研究力や創造力、そして行政による後押し等の支援の組み合わせにより、1+1+1を3よりも大きくしていくことが狙いです。

繊維業界も例外ではなく、利便性や機能の追求へ向けた研究開発や、普及のための販路拡大や情報発信などの努力、現在も鋭意努力されていることは重々承知ですが、それをより強固にするために、「産学官」の連携は大いに役立ってくるでしょう。私

としても、必要となる研究開発や人材育成などを強化していくために、「官」の立場から支援の手を差し伸べて少しでもお力になれたらと考えております。

最後に、各業界において、「産学官」の連携を図る動きが多数見られております。現在のような人口減少社会において、既存の産業が単体で未来へと進むのではなく、産・学・官それぞれの分野における強みを生かした連携を行うことで更なる発展を

実現することが重要です。和歌山県企業政策局長 北廣 理人

ポストコロナ時代に向けて

和歌山県 商工観光労働部 企業政策局長

北廣 理人



新年明けましておめでとうございます。紀州繊維工業協同組合並びに組合員の皆様におかれましては、平素から県行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このような状況の中、貴組合におかれましては、長年継続して国内最大級の展示・商談会「プレミアム・テキスタイル・ジャパン」への出展や、令和二年、三年とオンライン開催となりましたが「高野口パイルファブリック展」が「わがわが展」を実施されており、また、「SDGs」等に対応した新素材や新用途の提案を行うほか、高野口パ

イルファブリックのデジタルPムーシオンを実施するなど、新たな事業にも取り組まれています。加えて、昨年は世界で唯一の総合パイルファブリック産地として、高野口パイルのブランド価値を高めるとともに、ブランド保護のために「高野口パイル」を地域団体商標に登録され、積極的に産地としての販路開拓と情報発信に取り組まれています。組合員の皆様方におかれましては、ビジネス環境の変化に伴い、最終製品の製造販売や、ECサイトでの販路開拓など新たな事業にも取り組まれており、大変心強く思っております。

起こすことができると思えます。以上、私なりに社会の変化に伴う高野口パイルの今後を見えてきましたが、これらの変化に適切に対応しながら産地として活力を維持し発展していくためにも、産官学の連携が一層重要になると思えます。関係皆様のご尽力とともに、私も精一杯の力を尽くして参ります。

結びに、本年の紀州繊維工業協同組合のご発展と組合員皆様のご健勝を多幸、そして会社のご繁栄を心から祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

英語で発信して、世界中のバイルに関心のある人々に見てもらえるよう取り組むべきだと思います。海南の漆器店には世界中から注文が来るそうです。また先日テレビで紹介されていたが、豊屋さんが自前で作った英語を交えたホームページを見て、映画007に使う豊の注文が来たそうです。

おそらく、これだけの品質とファッション・インテリア・寝具・車両さらに資材系分野までバリエーションを備えたパイルファブリック総合産地の高野口パイルのホームページには、世界から多くの人がアクセスしてくるのではないのでしょうか。世界に目を向ければ、まだまだ需要を掘り

取れそうです。2021年度より青年部会会長を務めさせて頂いております、ヤマシタパイル有限会社代表取締役社長 山下 慎二です。任期満了までの2年間を誠心誠意頑張つて参りますので宜しくお願い申し上げます。また、平素は青年部会活動に多大なご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴い、緊急事態宣言発令など様々な生活環境の変化、経済活動の縮小を余儀なくされました。そんな中、賛否両論もありましたが、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。やはり人が一生懸命努力し、相手を敬いながら競う姿勢に感動し、テレビに釘付けになりました。感動のドラマが生まれる中に「13歳、真夏の冒険」と名実共に心が躍りました。私も健康維持の為に身体を動かそうと決意しました。

さて、青年部会も活動の制限を受けながらも、できることを模索し粛々と活動して参りました。今年度もコロナ禍において明るい兆しとなる様、最大限のコロナ対策(アフターコロナ)を取りながら、「やめる理由を探すより、やれる理由を探す」の気持ちを持ちながら、事業開拓に向けて鋭意努力して参ります。青年部会では、経営開発委員会・渉外委員会と連携し、委員長を中心に各委員が様々な知恵とこれまで培ってきたノウハウを十二分に生かしながら、未来ある青年部会を目指します。最後となりましたが、紀州繊維工業協同組合の会員皆様の方々の益々の事業の発展、ご活躍を祈念して挨拶と致します。

販路開拓を支援する「わかやまビジネスサポートセンター」など、段階別に事業者の皆様が必要とする支援メニューを準備し、繊維業界の皆様にも積極的に活用いただいております。海外への販路開拓では、各国・地域との往来が難しい中、海外の著名な展示会へのオンライン出展や、本県と経済交流の覚書を締結した国・地域とオンライン商談会を実施するなど、継続して支援に努めております。令和四年度では、新政策において「新しい世界で飛躍する和歌山」、「飛躍を支える基盤づくり」を二つの政策の柱として展開し、皆様の積極的な事業展開を全力で下支えし、ポストコロナ時代に挑み、和歌山が力強く飛躍できるよう取り組んで参ります。

最後に、新しい一年が貴組合をはじめ加盟企業の皆様方を取組が実を結び、和歌山の繊維産地が更に活性化されることを祈念致します。

青年部会会長 山下 慎二

和歌山県におきましては、昨年、「コロナ禍により売上が減少した事業者の皆様を支援するため」飲食・宿泊・サービス業等支援金の対象業種に繊維産業を含む地場産業を追加させていただきましたところ、併せて、県内事業者の新商品開発等を支援する「わかやまブランド元気ファンド事業」(首都圏への

和歌山県におきましては、昨年、「コロナ禍により売上が減少した事業者の皆様を支援するため」飲食・宿泊・サービス業等支援金の対象業種に繊維産業を含む地場産業を追加させていただきましたところ、併せて、県内事業者の新商品開発等を支援する「わかやまブランド元気ファンド事業」(首都圏への

和歌山県におきましては、昨年、「コロナ禍により売上が減少した事業者の皆様を支援するため」飲食・宿泊・サービス業等支援金の対象業種に繊維産業を含む地場産業を追加させていただきましたところ、併せて、県内事業者の新商品開発等を支援する「わかやまブランド元気ファンド事業」(首都圏への

ご挨拶

橋本市長

平木 哲朗



新年あけましておめでとう
でございます。

紀州繊維工業協同組合並びに組合員の皆様におかれましては、平素より市政各般にわたり、多大なるご支援、ご協力を賜り、とりわけ産業振興に熱意ある取組みをいただき厚く御礼申し上げます。

さて昨年は紀州繊維工業協同組合にとって最も大きなイベントである「高野口パイルフェア・ブリック展」の開催が中止となり、一昨年に続き二年連続での

オンライン開催となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な業種においてオンラインで開催するイベントが一般的になってきている状況で、高野口パイルの特徴が、基布にパイル糸を織り込んだ立体的な有毛布地であり、直接手に取ってもらうことで、他の産地には無い独特な風合いと温かみを認識していただけたという強みがあるだけに、その機会がなくなつたことは非常に残念でありました。

また新型コロナウイルス感染症は、繊維業界全体の売上にもおきな影響を及ぼし、その中でも特にパイル業界では、一昨年四月、五月の緊急事態宣言により店舗での売上が大きく減少いたしました。高野口の産地ではコロナ禍が長期化したことにより、二〇二〇年の秋冬物や二〇二一年の春夏物の発注

が減少し、昨年一年間は生産の回復には至っていないと伺っています。しかし新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種が進み、今後三回目の接種や経口薬の開発も進んでいる状況を考えると、今後、新型コロナウイルス感染症が沈静化し、多くの方が安心して外出できるようになつた際には、パイル業界をはじめ繊維業界全体が以前のよう

に活気を取り戻すことと信じていますので、引き続き国や県の経済対策と連携しながら、本市の基幹産業でありますパイル織物の支援に努めてまいります。

これまでも高野口パイルは、長年培った技術と経験により、時代の流れに沿った商品を開発してきたことで、繊維関連の業界はもろもろ幅広い業種からその技術の高さが認められてきました。エコファアをはじめ産業資材の開発など、新しい分野を開拓してきたからこそ現在の高野口パイルがある

と思いを。昨年の展示会から組合全体で意識しているSDGsは、すでに全世界のスタンダードになりつつあり、各業界が持続可能な社会の実現に向けて取り組みを進めている状況です。繊維業界におけるサステナビリティを

考えてみても、大量生産、大量消費の時代は終わり、循環型経済への移行が求められています。そういった状況の中で新型コロナウイルス感染症によって大きく変容した生活スタイルを受け入れ、商品の開発に取り組むことが重要であると思いを。

紀州繊維工業協同組合の各企業にはそれぞれ得意分野があり、自身の企業で実現できない仕事は産地内で相互に融通しあえる関係があると思いを。新しい商品の開発技術に加え、こういった他の組合にはない協力的体制、また理事長の強いリーダーシップのもと、紀州繊維工業協同組合が今後も発展を続けられますよう心から祈念申し上げます。

でも出来ることはすべて試してみようということ、今では色々なオンライン・メニューが揃って参りました。紀州繊維工業協同組合の皆様には是非、ご活用いただければと考えております。

パイル織物産業の更なる発展を願って

日本貿易振興機構(ジェトロ) 大阪本部長 根本 裕之



二〇二二年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

また、紀州繊維工業協同組合の皆様方には、平素より、ジェトロ事業に格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。ジェトロが和歌山県庁舎内に事務所を構えて、五年目になりました。以前はジェトロ大阪本部から和歌山企業の皆様との対外ビジネスをお手伝いさせていただきましたが、和歌山にジェトロの事務所を構えることができ、以

降は和歌山事務所がしっかりと紀州繊維工業協同組合の皆様をはじめとした和歌山企業の方々の対外ビジネスのお手伝いをさせていただきます。引き続き、ジェトロ和歌山事務所をご愛顧いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

コロナの影響により、人の往来が制約される下、ジェトロも七十超の海外事務所とのネットワークを活かし、オンラインの形で日本企業の皆様と海外企業を繋ぐ橋渡しを行っております。これまでの海外にミッションを派遣し、現地でのバイヤーと商談を行ったり、逆に海外のバイヤーを日本に招聘して商談を行ったりといったリアルなビジネス機会を提供していくことが困難になったことから、一気にオンラインで画面越しに海外とのビジネス機会を創出・提供してまいります。まだまだ不慣れな点がありますが、コロナ禍

でも出来ることはすべて試してみようということ、今では色々なオンライン・メニューが揃って参りました。紀州繊維工業協同組合の皆様には是非、ご活用いただければと考えております。

一方で、世界経済は、遠からず新型コロナウイルスの影響を最小限に抑え込み、再活性化します。世界的にワクチン接種が進めば海外との往来も復活し、これ以上でのリアルなビジネスの再開が期待されます。コロナ禍ではオンライン上でしか会えなかつた海外のバイヤーに実際に会いたいいただき、和歌山県産のスタッフに直接触れたいという機会もどんどん増えてくると思いを。

コロナが一段落した際には、ジェトロはこれまでのリアルなビジネス機会の創出も復活させます。そのための準備は怠りません。リアルなビジネスの再開後においても、紀州繊維工業協同組合の皆様方には、引き続き、ジェトロのサービスや海外のネットワークなどを最大限ご利用いただければと考えております。

コロナ禍においては国内外で色々なことに制約があり、自由にビジネスが展開できない期間が続いてきました。そうしたなかでも、紀州繊維工業協同組合の皆様は、パイル織物の特性を生かし、SDGsや動物愛護のトレンドにも乗り、フェイク・ファーを輸出なさつたり、コロナ禍のため中止延期を余儀なくされたものの、ファッション関係者へのアピールのため東京での展示会開催を準備されていたりと聞いています。また、過去には、他都市の繊維産業と共同して製品開発を試みられているなどのご活動をなさつていたと承知しております。

こうしたこれまでの取り組みを無駄にせず、将来に向けての糧となるよう、紀州繊維工業協同組合の皆様共々、ジェトロも頑張つて参りたいと思っております。そして本年は皆様方にとって素晴らしい一年でありますよう、更なる飛躍の一年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新たなステージへ組合様と共に

株式会社商工組合中央金庫 和歌山支店長 荒井 哲郎



新年あけましておめでとう
でございます。

紀州繊維工業協同組合の皆様には平素より商工中金に格別のご支援・ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に脱し、一部持ち直しの動きがみられるものの、行動制限もあり個人消費などに弱さがみられるうえ、素原材料価格の高騰が中小企業の収益圧迫要因として懸念されています。先行きについては持ち直しが期待される一方、感染症などの動向により

内外経済が下振れるリスク等にも十分に注視が必要な状況です。商工中金が実施したアンケート調査によると、昨年の繊維関連のお取引先の景況感はいずれも厳しい状況が続きました。

また、二〇二一年度の設備投資計画についても、全産業と比べ、やや慎重な姿勢が窺われ、足元の業績や景気の先行き不透明さなどをその理由に挙げ、傾向が強くなりました。

一方、コロナ禍を受けた対応策の検討状況に関するアンケートでは、繊維関連のお取引先の特徴として、当面は「デジタル化(DX)への取組みを強化し、コロナ収束後は「新規分野への参入や事業転換」を検討する」との回答が多く寄せられました。厳しい環境の中でもアフターコロナを見据え、繊維業界の以前からの課題である国内市場縮小や、コロナで変化した消費者嗜好への対応に正面から取り組む

うとする意欲が垣間見えます。商工中金ではお取引先がデジタル化へ取り組むにあたっての各種の支援、全国ネットワークを活かしたビジネスマッチング、あるいは事業再構築にあたっての経営相談など、お取引先の企業価値向上を目指した取り組みを続けてまいります。

二〇二二年は中小企業においても、ESGやSDGsを事業に取入れられる動きが一層強まると予想されます。とりわけ脱炭素に関しては、二〇二〇年十月の「二〇五〇年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする」との総理大臣表明などが後押しとなり、気候変動に着目した経営目標設定やCO2排出削減の取り組みが活発になることが考えられます。そのほか、コロナ感染症の動向にもありますが、原材料価格の一層の高騰やグローバルサプライチェーンにおける供給制約、人手不足の強まりなどが経営上の重要課題となる可能性が相応にあるとみられます。

このような変化の激しい経済・

社会環境下で中小企業がサステナブルな発展を遂げていくためには、個社では対応困難な課題を組合員が相互に助け合いつつ解決していく組合の役割がますます重要になってまいります。そして、その機能が最大限に発揮されるためにも、組合・組合員の皆さまのお取組みに、私も

も商工中金がしっかりと連携させていただきます。お役に立っていくことが大切と考えております。今後も私も商工中金は、組合の中央金庫であるという原点に立ち返り、株主でもありませんが、皆さまにおよび組合員の皆さまに、様々なソリューションを提供してまいります。

皆さまからの期待に応えられるよう役員一丸となって取り組まします。引き続き格別のご支援とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。結びに、紀州繊維工業協同組合並びに組合員の皆さまの今後益々のご発展を心からお祈りいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

繊維産業の未来を切り開くために、教育現場が果たす役割と責任

学校法人上田学園 理事 上田安子服飾専門学校 校長 田島 等



新年あけましておめでとう
でございます。

まず、ファッション教育現場の今についてお話をさせていただきます。現在、教育の現場はオンライン授業と対面授業の組み合わせ、つまりハイブリッド型授業が必須で、これがスタンダードな教育手法となりました。今や、フル対面授業には戻れ

なく、かと言ってフルオンライン授業では問題の先送りが多すぎ、進化したハイブリッド授業しかない状況です。

ハイブリッド型授業を進めていくにあたって同時進行的に知識の創造そして創造するチカラも求められてきました。教職員・学生全てにおいて創造することにおける知識と、それを生み出すチカラを身に付けるためにあらゆる手段で場の創造を積極的に行わなければなりません。

さて、私たちは小学校からずっとひとつの正解を求める勉強をしてきました。正解のある問題を解くこと、ひとつの答えを言い当てることを求められていたと思いを。つまり知識の量を試されてきました。しかし、ファッションの世界では毎シーズン正解のない問

題を解かねばなりません。正解のない問題を解くということ、は今まで誰も考えたことのないことを考えることです。

いま教育現場が直面していることは、評価を気にして正解を求めていないと不安だという意識です。多くの人たちが評価されることに雁字搦めになっています。

現代社会は、一見自由に見える。しかし多くの人たちが生きづらさ、不自由さを感じているのはなぜでしょうか。正解があつてそれを答えられれば優秀だと思ひ込んでいる人が多くいます。しかしこの社会で起つている現象は正解のない答えを出すことの連続です。評価される正解に雁字搦めになつていない人は、とても不自由で新しいものを創り出す創造性を欠く人になってしまっています。それでは楽しくないです。社会に貢献することもできません。必要なのはひとつの正解を言い当てるのではなく、今までにないアイデアや付加価値を創

造するチカラを身につけることです。これには知識量よりも知識の質が問われます。つまり「知識の質を高める」ということです。

知識の質を高めるために、教育の現場にとって重要なのが産学連携の推進です。産業界から最新の情報を教育機関へ伝え、学生たちと産業界と、お互いの乖離をなくす作業を行うことだと思いを。

二〇二二年はコロナ禍で計画が思い通りに進められないことも少なくないです。これまで積み重ねてきた歴史や伝統、強みに揺らぎなく、その上で、時代の変化に対応して推進してきた産学官連携や海外教育プログラムを通じた教育は、これからもますます進化をさせなければなりません。未来は輝いていてと信じて、逆風を恐れず進んで行きましよう。風が強いほど、より高く飛べます。本年も変わらぬお付き合いのほどよろしくお願ひ申し上げます。

力を合わせて明日に向かう

増井株式会社 顧問 長川 研一



皆様、新年あけましておめでとございませう。平素から紀州繊維工業協同組合並びに組合員の皆様には大変お世話になり心から御礼申し上げます。

この二年間は多人数での訪問を控えており、頻度は落ちていますが、私が高野口産地にお伺いするようになって七年になります。その間、産地に対しては、若い経営者が揃って商談時に愚痴が少なく、前向きで頼もしい。

組合を中心として産地としてのまとまりが強い。個社がしっかりした実績を上げている。関西人特有の「会話が楽しめる」(番外)地元のレストランのランチが美味しくて気楽という印象を持ちました。そして本当に好きな産地です。

販売手法について、産地の皆様と我々納入業者が一体となって開発に向けた活動を行っていくこと

③ 原料高・円安などのコストアップ要因に耐えられる仕入・生産体制と、適正価格を通る販売体制を構築することといったことが上げられるのではないのでしょうか。弊社としてはこれら

の項目に対し、産地企業各社と我々の同業他社の皆様との情報交換会が設定できるような、組合さんの事務局にお願いし、

「伊都は糸の義なり」今回の寄稿にあたり高野口産地について調べているときに目にし、その歴史に触れることが出来ました。

「あさ」は、麻なのか、朝なのか？不覚にも一度も高野口の朝を経験していません。

最後にになりましたが、紀州繊維工業協同組合、加盟企業の皆様、更には日本全国の繊維産地の皆様の益々のご発展とご健康を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

主なイベント

四月

■十六日(金) カネフクVベルト寄贈式

機料店として、長年当産地を支えて頂いているカネフク(株)様より、Vベルトを寄贈頂きました。

六月

■十日(木) 国際ファッション専門職大 三年生七名 資料館見学

令和三年度通常総会

全議案原案通り可決。

九月

■十四日(火) 大阪文化服装学院二年生、生徒八名、先生三名 産地視察

十月

■十三日(水) 上田女子服飾専門学校生徒十二名、先生三名 産地視察

■二十日(水) 高野口バイルフアブリック展 オンライン展示会開催

十一月

■二十九日(金) オータムフェスティバル即売 於ノバティながの

十二月

■十七日(水) 文化服装学院三年生、生徒十八名、先生一名 産地視察

■二十日(土) 和の体験フェアに手織り講師として野上孝子氏参加。再織美演

三十日(火) ビジネスマッチングフォーラム

於 綿業会館



十二月

■七日(火)・八日(水) プレミアムテキスタイルジャパン 2022A/W 出展 於 東京国際フォーラム



■十一日(土) 組合まつり即売 於 和歌山城西ノ丸広場

■十六日(木) 和歌山高野口産地見学会

せんば適塾主催のイベントで当組合二階会議室にてプレゼン会の開催及び組合員企業工場見学を実施しました。

編集後記

登山編

十一月初旬、紅葉見ごろの高野山へ、組合及び関係者皆様の益々のご発展とご健康を祈念して、登って参りました。

コースは、只今橋本市イチ押し「黒河道」(くるこみち)です。

スタート地点が町石道に比べ、橋本駅からの取りつきとなり、大阪からのアクセスが良く登山者が好む変化のあるコースでなかなか楽しい登山道です。分岐点には、的確に案内板があり、迷うことはほとんどありません。500m毎に番号道標もありピークの子継峠までの励みになります。

金剛寺前 シンゴニ兄弟。(青・黄・赤)



登山初心者ですが若き力で登りきりました。